

第3回釜石情報交流センター運営検討委員会開催結果

日 時 平成26年4月8日（月）午後2時から午後4時まで
場 所 市役所第7会議室
出席者 次頁のとおり
次 第 以下のとおり
結 果 下記のとおり

<次第>

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者紹介
4. 釜石情報交流センター設計者のご紹介
5. 釜石情報交流センター設計案
6. 意見交換
7. 事務連絡
8. 閉会

第3回 釜石情報交流センター運営検討委員会 名簿

<委員>

番号	氏名	所属等	備考	出欠
1	さきき しげお 佐々木重雄	釜石商工会議所 専務理事	市民ホール検討委員	出席
2	ヤマグチ サトミ 山口里美	RCF復興支援チーム	市民ホール検討委員	出席
3	コンノ キョウコ 金野恭子	釜石商工会議所女性会		欠席
4	サイトウ ユウキ 斎藤裕基	釜石東部コミュニティ振興グループ代表		欠席
5	オガサワラ ジュンイチ 小笠原順一	釜石市大渡町商店街振興組合		出席
6	シモムラ タツシ 下村達志	釜石まちづくり株式会社	交流センター準備委員会	出席
7	サイジヨウヨシヤス 西条佳泰	LiFESTYLE Lab.代表	交流センター準備委員会	出席
8	タカハシツネコ 高橋つね子	エプロンハウスHOT	共同店舗	欠席
9	キクチ ヒロタカ 菊池広隆	小島製菓	共同店舗	出席
10	フクシ マサユキ 福土正行	市民公募		出席
11	ササキ ヨシコ 佐々木愉子	市民公募		出席

<準備委員会>

番号	氏名	所属等	備考	出欠
1	イワハナンスケ 岩鼻伸介	ハピスコヒー代表	交流センター準備委員会	出席
2	イシイ カズノリ 石井重成	釜石市復興推進本部事務局	交流センター準備委員会	出席
3	シライワケンスケ 白岩健介	釜石市教育委員会生涯学習文化課	交流センター準備委員会	出席

<設計者>

1	ヨコミゾマコト	aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所	
2	青島琢治	aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所	
3	押木加菜	aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所	

<アドバイザー>

1	小野田泰明	東北大学教授 復興ディレクター	
---	-------	-----------------	--

<事務局>

1	氏原 茂将	(株)創建	
2	釜石まちづくり株式会社		
3	釜石市総務企画部広聴広報課		
4	釜石市教育委員会図書館		
5	釜石市教育委員会生涯学習文化課		
6	釜石市産業振興部観光交流課		
7	釜石市産業振興部商工労政課		
8	釜石市復興推進本部復興住宅整備室		
9	釜石市復興推進本部リーディング事業推進室		

<結果>

1. 開会（事務局）

2. 挨拶（委員長）

市民の皆様、また市外から来られる皆様が使いやすい施設を作れるようにできたらと思います。よろしくお願いします。

3. 出席者紹介（事務局）

4. 釜石情報交流センター設計者の紹介（事務局）

（ヨコミゾ氏）普段大学で、芸学の学校で、文化に関わる建築の仕事をできたらと考えてきて、今回この仕事ができることを大変うれしく思っています。よろしくお願いします。

5. 釜石情報交流センター設計案

事務局：よろしくお願いします。図面は、これまでの委員会での検討を踏まえて、ヨコミゾ先生に形にしてもらったもの。今日みなさんのご意見・ご質問をお伺いして、先生に改めてご検討いただくこととしたい。ハードに対する意見と、ソフト（活動）に対する意見を両方いただきたい。

設計者：図面説明。大人と子どものエリアを分けるよりも、同じ空間で過ごせる、という考え方が良いと考えているが、皆さんのご意見をいただきたい。[富山市グランドプラザの例]

6. 意見交換

事務局：面積、広場の使い方、長距離バスのバス停等が前回までに議題に上ったが、広場のレイアウトについて、ハード・ソフト両方についてご意見を伺いたい。

設計者：模型をご覧ください。

準備委員会委員：広場も含めてラウンジのようになるとよいのでは。ラウンジとカフェをより連動させたい。釜石を代表するパン屋やお菓子屋が入ってくればにぎわいが出るかと思うが、厨房の作業ができるスペースがあるとよいと思う。会議室に関してはカードキーのようなセキュリティーがあるとよいと思うが、あとは自由に座ったりできるようなイメージ。

設計者：カフェはどうでしょう。

事務局：オーナーはこれから決めますが、設計条件は大きく変わりますか。

設計者：面積は決めておきたい。

オブザーバー：普通はC工事。

準備委員会委員：事業者によって厨房の大きさを変えられるということか。

事務局：設計が決まる前に事業者を決めることとしたい。面積の関係でキッチンを下とした経緯があったが、復活させる方向。ちょっとしたパーティーをしたりできるとよいと思う。

事務局：キッチンスタジオはどう思うか。ガスかIHか。

委員：厨房設備が収納できるものであれば、テーブルとして使うこともできる。

事務局：キッチンはあまりがんばりすぎないイメージということか。

委員：コンパクトなものでよいのでは。

準備委員会委員：ラウンジは何人くらい座れるイメージか？

準備委員会委員：カフェのスペースを少なくしてラウンジを大きくしてつなげれば、カフェ側の負担も少ない。

オブザーバー：20人くらい入るのでは。

設計者：ライブラリーは、図書館から借りるのか、どういう形になるのか。

事務局：最新の雑誌を置くこと等を考えているが、皆様のご意見を伺いたい。

事務局：冊数としては2000冊かもっと入るのでは？

設計者：今の案だと、雑誌6000冊くらい。まちづくり会社が置く本を考える感じですか。

事務局：今後検討する。

準備委員会委員：カウンターはフラットタイプか。アイランド型なども可能か。海外などでも、アイランド型が最近採用されていて、温かい感じでよいと思う。

設計者：コの字型のカウンターを設計したことがある。全方位に向く感じで、幅広い層が集まれる。通りかかると入らざるを得ないような感じ。マスターが大事になってくる。

委員：自分はタバコが嫌いな喫煙者だが、青葉ビルの周辺には灰皿が設置していない。

玄関で吸ったりして、灰皿がないが、捨てないでくださいと書いてある。喫煙コーナーがあるとよいと思う。

委員：代々木ビレッジの喫煙ルームは上手く隠してある。

準備委員会委員：授乳室とトイレは別にするべき。

委員：トイレは空間そのものを快適にするべき。

事務局：厚労省の規定で、このような施設に喫煙室を設けてはいけないという規程のようなものがあつたかもしれないので確認したい。図書館などはそういう風になっているよう。

設計者：サーバー室はこんなに小さくなくてもよいのではないかと考えている。

委員：外用の水道とかあるとよいと思う。外で小さい子が遊んだりすることを考えると便利。

設計者：広場でいろんなイベントをサポートするためには、給排水と、電気100v、200v

の配線が必要。木はプランターにして、全部動かせるものを考えている。

委員：ベンチも動かせるのか

設計者：持って行かれたりという心配もあるので考えたい。

準備委員会委員：野外スクリーンを置いて、パブリックビューイングができたりすると面白い。

準備委員会委員：営業時間は？

事務局：公共施設は9時—9時が多い。広場を通り抜けるのは24時間可能。

準備委員会委員：パン屋が朝早くから開いていたりすると、朝から散歩して立ち寄りたりできる。

事務局：カフェは公共施設ではなくテナントなので、何時に開けても自由。

事務局：交流センターの受付をどうするかということもある。カウンターを設けないという考え方もある。コストがとてかかる部分でもあるし、サービスデスクにして、カウンターにしないということも可能性として考えたい。

委員：子どもを隔離しない方がよいという考え方を聞きしたが、親として周りに迷惑をかけたくないという思いがあったが、最近地域で子育てをしなくなっているということもあるし、一緒に子どもがいても利用できる施設というのも良いのかと感じた。

設計者：いろんな考え方がある。

委員：ミッフィーカフェがミッフィーのおもちゃで遊べるようになっていけば、外から人が呼べるのではないか。

委員：人の流れが外側の通路だけでできるのかどうか。中の方にもあった方良いのではないか。

設計者：前回、タクシー乗り場のようなものがあれば、というお話しがあったが、必要か。

委員長：タクシー乗り場は現在無く、イオンも前で降りている。

委員：イオンのお客さんもここをタクシー乗り場として利用すると思う。

事務局：バスの停留所は指定した方がよいかも。

事務局：意見集約すると、キッチンを入れてもよいか。

委員：巨大でなければ良いのでは。

委員長：物産センターでの失敗例がある。キッチンとカフェの厨房は別か？

オブザーバー：まち会社の運営にもよる。

委員：ホールの2階にキッチンがあればよいのでは？

オブザーバー：小野田：コンサートがあるときしか使われないので、交流センターから出前のような感じで、ブースだけあれば良いのでは。

委員：ラウンジやライブラリーの回遊性を確保する方が優先順位が高いが、交流センターとホールの2階が繋がっていて、ホール側にも水回り程度があると利用促進になっ

てよいのでは。

委員：ふたをして作業台になるのであれば、ニーズがあれば図工的なワークショップをやったりもできる。

事務局：目的やターゲットを絞り込むかどうか。時間で分かれるという話もあり、今はまだ集約できていないかと思うが、どうするか。

オブザーバー：そもそも子どもがどのくらいくるのか、ということがある。

副委員長：子どもが来て良いところにしかそもそも行かないので、そこをはっきりしてほしい。

オブザーバー：せっかくミッフィーも来てくれるので、子どもに対してウェルカム感を出したい。

設計者：子どもはこういうラウンジやライブラリーにはあまりいないと思う。

事務局：お母さんと一緒に来れるという

委員：カフェの中にそういう場所を作るのはどうか。

委員：ミッフィーがあって、子どもがウェルカムなカフェは素敵。工夫が必要。

事務局：運営の観点から言うと、子どものためのスペースを取るということは、ニッチ過ぎるかも。子どもがどのくらい来るのかを考える必要がある。時間帯限定の利用場所を設けるという考え方だとスペースが限られる。利用者にも周知して、コミュニティで育てるという考え方もある。

事務局：先生方と一緒に考えたい。

委員：デジタルサイネージの置く場所はどこにするか？

設計者：どういう意味内容の情報を出すのか。想定でよい。

委員：地域情報、生活情報、エリアのテナント情報、観光情報、広告、釜石の情報を集約。いずれは市との連携、テレビ局との連携などでニュース情報なども流したい。

委員：施設の利用状況、市民ホールでの催事やイベントの状況等も含む。

設計者：オンデマンドではなく、紙芝居形式か。

委員：イメージ的には液晶テレビ40型以上のものを縦に3つくらい置く。

事務局：どの辺にあるとよいか。

委員：サイバー室と授乳室の壁側辺りの位置になるのかと思う。

設計者：夜間は広場から見えて、昼間はラウンジから見えるということではよいか。通行人に見せるのであれば、ラウンジからは見えない。

委員：液晶テレビ自体は複数置くことができるので、中に置くものも別途考えることができる。

設計者：これは何工事にあたるか？

オブザーバー：備品は建築費に含まれないが、交流センターは一括でデザインビルドなので、それ以外の予算は取りにくいのでは。

設計者：デジタルサイネージも予算次第ということか。

事務局：内部で調整。

事務局：図書館について、どのような機能を求めるか、図書館長さんにどの辺までできるかお伺いしたい。

図書館長：図書館という形だと、ある程度制約がある。事業として読み聞かせを出張で実施したりはできると思う。本は消耗品ではないという考えなので、どこまでできるかということを考えている。

事務局：予約や返却等は可能か。

図書館長：返却ボックスを置くことはできるかと思う。コンピュータで管理しているので、あらかじめ予約してもらったものを受け取る等、情報管理ができれば、技術的には可能ではないかと思う。費用のことは別途検討。

委員：ライブラリー自体のキャラ付けとして、オランダ大使館からミッフィーの本をたくさんもらえたりしないか。

オブザーバー：頼めば少しはもらえるのでは。こういう寄贈は誰が管理するか。

図書館長：交流センターの蔵書ということであれば、自由にできる。図書館に寄贈となると、ルールを適用しなければならない。

事務局長：2階、集会室、ワークスペース等に関して、言い忘れたこと等、ご意見ございますか？

準備員会委員：2階がホールと繋がるという話は？

オブザーバー：そこにお金をかけると、他のところかけられるお金が少なくなる。

事務局：広場の屋根とブリッジとどっちが重要か？

一同：屋根

委員：集会室と会議室をパーテーションにするのか？

委員：ワークスペースは静かにできるよう、集会室と会議室は可動壁にするのが廊下とワークスペースをきっちり分ける方がよい。

事務局：いただいた意見を集約して、次回にご報告したい。

事務局：今日いただいた意見をヨコミゾ先生と打ち合わせして、設計案を次回皆さんにご提示したいと思います。

オブザーバー：イオンがオープンして、ライフスタイルが定着する前に、この交流センターを急いで建築したい。サイン、家具の話等はこの後も継続して協議したいが、設計の方は早く進めていきたいということでご理解いただきたい。

事務局：連休明けに皆さんにご説明して、市議会に説明したい。引き続き、運営やソフト面について協議を続けたい。

この秋にオランダ大使館からミッフィーカフェのイベントをやらないかというお話をいただいております、皆さんにもご協力いただきたいと思います。